

『テレマカシ インドネシア ～みんなが豊かになる方法～』

学校名・名前：柳学園中学校・高等学校・山中 信幸

実践教科：公民科(現代社会)

指導時数：5時間

対象学年：高校1年生

対象人数：1組22人、2組21人

1. カリキュラム

(1)実践の目的

- ①インドネシアの歴史・文化・政治について知る。
- ②インドネシアと日本のつながりについて知る。
- ③インドネシアの格差や貧困をうみだす構造を理解する。
- ④グローバルな相互依存関係が日本やインドネシアに住む人々にどのような影響があるかを理解する。
- ⑤「豊かさ」とは何かについて考える。

(2)授業の構成

時限	ねらい	内容(方法を含む)	使用教材・收拾物等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの概要を知る ・インドネシアと私たちとのつながりについて考える ・アンボイナ事件について知る 	<ol style="list-style-type: none"> ①インドネシアクイズに答える ②インドネシアの産物と私たちの生活とのつながりを考える ③アンボイナ事件カードを使って、アンボイナ事件の概要を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアクイズ ・「インドネシアの産物カード」 ・「アンボイナ事件」カード ・東南アジアの白地図
2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの歴史について知る 	<ol style="list-style-type: none"> ①インドネシアの歴史について、写真・年表・資料を見て、オランダ支配の歴史について理解する ②インドネシアにおいて展開されたプランテーション体制の影響について考える ③日本の占領期について、日本がインドネシアを占領した目的は何か、また日本によってどのような支配がなされていたかについて理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダ支配の様子を示す写真と絵 ・インドネシア歴史シート ・「romushas」「heiho」「ianfu」のカードと写真
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゴミ」と「アルミ」から現代のインドネシアと日本の関係について考える ・現代のインドネシアの町の 	<ol style="list-style-type: none"> ①「日本とインドネシアのつながりカード」をもとに情報交換し、私たちの生活がインドネシアとどのようにつながっているかについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアと日本のつながりカード ・インドネシアの開発ランキングカード

様子から、インドネシアの問題を考える ・「開発」とは何かについて考える	②インドネシアにとって何が大切かを、「インドネシアの開発ランキングカード」を使って考える ③私たちにとって、「開発」とは何かについて考える
--	--

2. 授業の詳細

1時限目 「インドネシアクイズ」

- ①全員に「インドネシアクイズ」のシートを配る。
- ②各自で、そのクイズの答えをシートに書き込む。
- ③クイズの解説をする。

① インドネシアって、どこからどこまでなんでしょう。

下の白地図のインドネシアに色を塗りましょう。



②インドネシアはいくつの島から成り立っているでしょう？

ア)10000以上 イ)12000以上 ウ)14000以上 エ)17000以上

③②の島のうち、人が定住している島はいくつでしょう。

ア)約4000 イ)約5000 ウ)約6000 エ)約7000

④インドネシアの主要な島はスマトラ・ジャワ・カリマンタン・スラウェシ・パプアの5島ですが、このなかで人口が一番多いのはどこでしょう。

⑤インドネシアに住む民族のうち、一番の多いのは何民族でしょう。

ア)ジャワ人 イ)スンダ人 ウ)ムラユ人 エ)マドウラ人 オ)マナンカバウ人
カ)ブギス人 キ)バタック人 ク)バリ人 ケ)バンジャル人

⑥インドネシア語の母体となっているのは、次のうちのどの言葉でしょう。

ア)ジャワ語 イ)ムラユ語(マレー語) ウ)スンダ語 エ)バリ語

⑦日本とインドネシアとの経済関係が緊密になったのは次のうちのいつの時代でしょう。

ア)鎌倉 イ)室町 ウ)安土桃山 エ)江戸 ウ)明治 エ)大正 オ)昭和

⑧インドネシアと日本との交流が表現されている映画はつぎのうちのどれでしょう。

ア)ゴジラ イ)モスラ ウ)ドラえもん エ)大魔神 オ)ガメラ

⑨インドネシアの国民の90%近くの人が信仰する宗教は何か。

ア)ヒンドゥー教 イ)イスラム教 ウ)仏教 エ)キリスト教

⑩インドネシアの独立は何年何月でしょう。

ア)1945年8月 イ)1945年9月 ウ)1948年12月 エ)1949年12月

⑪インドネシアの大統領を古いものから順番に並べてみましょう。

ア)メガワティ イ)ユドヨノ ウ)ハビビ エ)スハルト オ)スカルノ カ)ワヒッド

2時限目 「インドネシアと私たちとのつながりを考える」

①4～5人のグループをつくる。

②各グループに「インドネシアと私たちとのつながりカード」を配る。

③参加者は写真カード・内容カード・モノ（丁字・アルミ缶・砂糖・ゴム製品・石油製品・洗剤・合板製品・干しエビ）のそれぞれから関係のあるモノやカードを選び、仲間ごとに分ける。

④グループで、気づいたこと・感じたことを話し合う。

内容カードの例

私たちは肉料理するときには欠かせません。私が高価な値段で取引された頃は冷蔵庫なんかありませんでした。ですから、肉は大抵、保存をするため塩漬けにされていました。でも、それでもしばらくすると腐ってきます。そんなとき、私を使って調理すると、本当においしくなったんですって。だから、私は金と同じ量で取引されたんだそうです。

私は最初は薬として使われていました。でもプランテーションで大量に作られるようになると、紅茶に私をいれて飲まれるようになりました。特にイギリスではアフタヌーンティーという習慣もでき、私をいれて紅茶を飲むことが大流行しました。

3時限目 「アンボイナ事件」

①4～5人のグループに分かれる。

②アンボイナ事件カードとオランダ東インド会社カード、白地図を各グループに配る。

③配付されたアンボイナ事件カード（資料1～3）・オランダ東インド会社カード（1・2）から1人1枚ずつ取り、各自その内容を読む。

④進行役は次のように告げる。

「これから配る情報紙には、一人ずつ違った内容が書いてあります。必要に応じて読み上げることはかまいませんが、他の人のカードを見たり、自分のカードを渡したり見せたりすることはできません。また、カードをそのまま書き出して、表にまとめることはしないで下さい。白地図の上に絵や図、ポイントとなる言葉を書くことはかまいません。みんなで情報を出し合って、アンボイナ事件とはどんな事件だったかを考えましょう。スタートの合図から25分で作業は打ち切られます。では始めてください。」

⑤作業の終了後、各グループの代表者がアンボイナ事件について説明する。

アンボイナ(アンボン)事件 Amboyna massacre (1623/2/23～3/9)

アンボイナ事件とは、どのような事件だったのでしょうか。

また、この結果はどのようなようになったのでしょうか。

アンボイナ事件 資料1

アンボイナ島は、インドネシア・モルッカ諸島南方のセラム島の南西に位置する島で、クローブなどの香料を産することで知られていました。ヨーロッパで珍重されたこの香料を求めて、同島への進出を図る国が相次いでいました。1512年にポルトガル人が進出して以来、アンボイナ島の香料はポルトガルが独占していました。しかし、1599年にオランダ人がポルトガル勢を駆逐し、支配権を確立しました。これに対して、イギリスも1615年に進出して香料貿易を行い、激しく競争しました。

事態を收拾するため、英蘭両国の政府は1619年に協定を締結し、香料貿易は今後両国が共同で行い、利益は3分の2をオランダが、残り3分の1をイギリスが得ること、これまで両国が占領した地域の領有権は現状

のまま留め置くが、今後征服した土地は両国で折半することなどを相互に確認しました。しかしオランダはこれを無視して取引を行ったので、激怒したイギリス人はバタヴィアでオランダ人を駆逐。両者の確執は一向に収まる気配がありませんでした。

アンボイナ事件 資料2

東南アジアには日本人が多く進出し、アユタヤやプノンペンには日本人町が形成されるほどでした。アンボイナ島にも日本人が居住し、傭兵として勤務する者もいました。1623年2月23日の夜にオランダ側の傭兵の「七蔵」という日本人が他の傭兵らに対し、城壁の構造や兵の数についてしきりに尋ねていました。これを不審に思ったオランダ当局が、七蔵を捕えて拷問にかけたところ、イギリスが砦の占領を計画していると自白しました。直ちにイギリス商館長ら30余名を捕らえたオランダ当局は、彼らに火責め、水責め、四肢の切断などの凄惨な拷問を加え、イギリスの占領計画を認めさせました。3月9日にオランダ当局はイギリス人10人、日本人9人、ポルトガル人1人を斬首して、同島におけるイギリス勢力を排除しました。

アンボイナ事件 資料3

アンボイナ事件のことは程なくイギリス本国に伝わり、英蘭両国の間で進行していた東インド会社の合併交渉は決裂、ついには外交問題にまで発展しました。事件発生から実に31年後の1654年にオランダ政府が8万5000ポンドの賠償金を支出することで決着しました。

この事件をきっかけに、東南アジアにおけるイギリスの影響力は縮小し、オランダが支配権を強めました。しかし、かつて同量の金と交換されたこともあったほどの高級品だった香料の価格は次第に下落。それに伴い、オランダの世界的地位も下がり始めました。対して、新たな海外拠点をインドに求めたイギリスは、良質な綿製品の大量生産によって国力を増加させてゆきました。

(解答)アンボイナ(アンボン)島事件

Amboyna massacre (1623/2/23~3/9) アンボイナ事件(アンボン事件)とは、1623年にモルッカ諸島のアンボイナ(Amboyna、現アンボンAmbon)島にあるイギリス商館をオランダが襲い、商館員を全員殺害した事件です。これによりイギリスの香辛料貿易は頓挫し、オランダが同島の権益を独占しました。イギリスは東南アジアから撤退し、インドへ矛先を向けることとなりました。英語表記の「Amboyna massacre」は「アンボイナの虐殺」を意味しています。

4時限目 「インドネシアの歴史について知る」

- ①資料「インドネシアの歴史」を見て、インドネシアとイギリス・オランダ・日本との関係を知る。
- ②ワークシートに記入する。

ワークシート 「インドネシアの歴史」

- 1)インドネシアとオランダ・イギリス・日本は、それぞれのどのようなつながりをもっていたのでしょうか
(インドネシアとオランダ・イギリス)
(インドネシアと日本)
- 2)オランダのインドネシアに対する経済的政策は、インドネシアにどのような影響を及ぼすでしょう
- 3)資料「インドネシアの歴史」を見て、どのように感じましたか

- ③4~5人のグループに分かれ、「heiho」「romusha」「ianfu」の3つのインドネシア語の読みと意味を考え、なぜこのような言葉が残ったのかについて話し合う。
- ④「資料インドネシアと日本の歴史的つながり」を見て、日本とインドネシアの歴史的つながりを知る。
- ⑤ワークシートに記入する。

ワークシート 「インドネシアと日本の歴史的つながり」から考える

- 1)インドネシアと日本とは、どんなつながりを持っていたのでしょうか
- 2)日本のインドネシアに対する経済的政策は、その後のインドネシアにどのような影響を与えたと思いますか
- 3)資料「インドネシアと日本の歴史的つながり」を見て、どのように感じましたか

5時限目 「現代のインドネシアと日本の関係について考える」

- ① 6人のグループに分かれる。
- ② 「3 in 1」の写真を見て、これは何をしているかをグループで話し合う。



「3 in 1」制度とは・・・
公共の目的以外の車両や公共の目的以外のバス及び貨物車両は、目的以外のバス及び貨物車両は、交通規制の対象区域においては、運転手も含めて少なくとも3名以上を乗車させる義務を有するという、ジャカルタ首都圏の交通規制のこと。

話し合いの後、「3 in 1」について説明する。

- ③ 「インドネシアの街にいる人」の絵を見て、気づいたことを話し合う。
(武部洋子『旅の指さし会話帳2インドネシア』情報センター出版局、2008年、P.50-51より抜粋)
インドネシアの街には、資金や資格や準備をあまり必要としない職業が多いのはなぜかを話し合う。
- ④ 進行役は次のように述べたのち、各グループに役割カードを配る。

ジャカルタに新しい知事が赴任して数年がたちました。彼は首都ジャカルタを「美しく、人間的で、威厳のある都市」に造りかえようとしてきました。知事は第二次都市再開発計画を立案するにあたり、市民の意見を聞くと考えました。そこで、無作為に5人の市民を集め、今後どのような再開発を実施すべきか話し合うことにしました。さてここに集まった皆さんは、これまでのインドネシアの開発に対する意見をのべ、ジャカルタの未来について話し合ってください。

- ⑤ 役割カード(知事・インドネシアに住み着いた日本人・アサハンダム周辺の農民・アルミ精錬工場の労働者・ゴミの回収業者・観光立国推進派)を各自1枚ずつとり、その内容を読む。
- ⑥ 役割ごとにグループに分かれ、その内容を理解し、役割になりきるための話し合いをする。
- ⑦ もとのグループにもどり、ロールプレイを始める。最初に自己紹介をし、自分の考えを述べる。
このとき、知事が司会を務める。その後、その役割になりきり「インドネシアの開発ランキング」のカードを使って、望ましい開発のランキングを行う。
- ⑧ グループごとに、ランキングの結果を発表する。
- ⑨ 日本に住む私たちにとって必要な「開発」とは何かをグループで考える。
- ⑩ 「開発」とは、「私たちの生活をよりよくすること」だとすると、私たちに「よりよい生活」とはどのような生活なのかについてグループで話し合い、その「よりよい生活」を実現するには、日常生活の中でどのようなことに気をつけなければならないかについて話し合う。
- ⑪ ⑨⑩で話し合った内容を模造紙にまとめて、グループごとに発表する。

役割カードの例

私は、ジャカルタの知事です。ジャカルタの街はずいぶん美しくなったとはいうものの、まだまだ国際都市としては恥ずかしい状態です。私はゴミ処理問題は早急に解決したいと考え、これまで取り組んできました。それがジャカルタ都市廃棄物処理計画に基づいて大規模衛生埋め立て方式のゴミ最終処分場をつくりました。また、ゴミのリサイクルにも貢献してきたつもりです。でも、まだまだ問題は山積みです。

そのうちの一つは都市部にある貧困層の居住地区を無くしていきたくて考えています。そこでまず、飛行場の跡地に団地を建設し、その居住地区に住む人々をそこに住めるようにしたいと考えています。そしてその周辺に貿易センタービルや、イベントホールやレストラン、公園、駐車場などを作り、快適な都市環境の整備をしたいのです。また、ジャカルタの都市には車やバイクがあふれていることも問題だと思っています。この状況を改善するために幹線道路を整備し、有料道路へのアクセスもスムーズにしましょう。

それと忘れてはいけないのが、幹線道路周辺に住む無断居住者を立ち退かせることです。彼らの存在はまちの環境を悪化させています。美しく、そして快適に過ごせるまちづくりにこれからも取り組んでいきたいと思います。

また、農村に対しては、近代的な農業技術を取り入れ、品種改良された高収量品種の米を生産できるようにしたいと考えています。そうすれば、すべての人に食料が行き渡ることになるでしょう。もちろん、品種改良された稲を作るには灌漑設備や化学肥料、農薬が必要になるでしょうが、それに必要な資金は公的な低利農業金融から借りられるようにしましょう。村人が集まってみんなで農作業に取り組むような昔ながらのやり方は、非常に非合理的だ。農業も合理化を図る必要がある。そうやって、食糧増産をはかり、米を輸入しなくてもみんなが食べていけるようにしなければならないのですよ。農村も都市も、近代化を進めることが第一です。

私はインドネシアが好きで、ここに住むようになった日本人です。この写真を見てください。



この写真は私が数人の日本人と貧困層の居住地区に行ったときの写真です。このときに私は驚いたのです。もし日本で、私たちが住んでるところに突然数人の外国人がやってきて、パチパチ写真を撮ったり、「今、何してるの?」とか「これはあなたのバイク?」とか「一緒に写真を撮って?」とか言われたら、きっと誰でも驚いて変な眼で見たり、機嫌を悪くして家に入ってしまうのではないのでしょうか?

でもこのとき、この人たちの誰もが、笑顔で私たちを迎えてくれたんです。後から考えたら失礼なことをしたと反省したんですが、そのときはあまりに自然に受け入れてもらえたんで、そんな自分たちの失礼さに気がつきませんでした。恥ずかしいことですが…。

次の写真はスラムの学校の写真です。NGOの支援で寮と学校が作られ、ストリートチルドレンだった子どもたちが、生活をしているところです。この子たちの笑顔を見てください。



私たちはこの笑顔に感動したものでした。でもそこから帰ったあと考えたんです。なぜみんなあんなに明るい笑顔で私たちを迎えてくれたんだろうって。私たち日本人と何が違うんだろう。私たち日本人にないものって何だろうって。

貧困層の居住地区に住む人たちは、ほとんどが大家族だという話を聞きました。それはたくさん子どもがいるからって理由だけではないんですよね。親戚とか知り合いとかが、住むところがないという理由で、一緒に住んでいることがあるんですって。出稼ぎに着た人たちが一緒に住んでいることもあるんですよね。そしてこうして一緒に住んでいると、助け合ったり、話し合ったりする必要がでてくるんですね。インドネシアでは、こういった自発的な相互扶助(ゴトンロヨン)がまだ生活の中に生きているんです。一人一人の心の中に「情けは人のためならず」という気持が根付いているってことなんじゃないかなって。きっと、だから私たちが行ったときも、あんなに明るく受け入れてもらえたんだろうと思います。私はこの経験があったから、インドネシアのことが大好きになり、ここに住むことに決めました。

こんなすばらしい精神が根付いていることを誇りにすべきだと思います。インドネシアの文化を守り、伝統的産業を育み、輸入代替型の産業を中心に、内発的な発展を目指すべきなのではないでしょうか。

開発ランキングカード

近代的な農法を導入し、農業生産性を高め、食糧自給を実現する	他国に頼らず、エネルギー資源を開発し、技術革新をすすめる
輸出産業を育成し、輸出作物の増産をはかり、貿易大国をめざす	新たな観光資源を開発するとともに、インフラを整備し、観光立国をめざす
他の国々に依存することをやめ、伝統的産業を発展させ、輸入代替工業化をすすめる	民主的で多様性を尊重する政治体制を樹立する
すべての人が能力に応じて教育を受け、自己実現に向けて努力することができる	経済的發展を目指すのではなく、ゴトンロヨンが根付いた思いやりのある社会を構築し、自然環境をまもる
貧困層への社会保障制度を整える	

3. 成果と課題

本教材は、学習者自らがインドネシアと日本と相互依存関係を知り、途上国に対する自己の偏見に気づくことにより、不公正な社会に対する疑問を持つことができるように単元を構成した。

また、それぞれのプログラムの終わりには、その学習プログラムの中で、自らが何を学び、何を感じたかについて振り返る時間がとるようにすることで、学習者が学びを分かち合う時間をとるようにした。

このような参加体験型の学習活動を通して、学習者は他者との関わりの中から学ぶということを経験することができるであろう。

しかし、ここで最も注意しなければならないのは、インドネシアの人々を貧しく教育レベルが低く、援助をしてもらう側の人々であるというイメージを学習者に持たせないようにすることである。そして、そのためには、インドネシアという国の豊かな文化や、インドネシアの人々の持つ「生きる力」などについて、学習者が理解することができるように工夫しなければならないのである。

参考文献

- 1) 浅野健一『日本は世界の敵になる ODAの犯罪』三一書房、1994年。
- 2) 福家洋介・藤林泰編著『日本人の暮らしのためだったODA』コモンズ、1999年。
- 3) 岩崎育夫『アジア政治を見る眼 開発独裁から市民社会へ』中央公論新社、2001年。
- 4) 宮本謙介『概説 インドネシア経済史』有斐閣、2003年。
- 5) 水本達也『インドネシア 多民族国家という宿命』中央公論新社、2006年。
- 6) 田中優・檜田秀樹・マエキタミヤコ編『世界からまずしさをなくす30の方法』2007年。